



# LRQA独立保証声明書

## 日本空港ビルデング株式会社の ESG データブック 2024 に掲載される 2024 年度温室効果ガス排出量データに関する保証

この保証声明書は、契約に基づいて日本空港ビルデング株式会社に対して作成されたものである。

### 保証業務の条件

LRQA リミテッド (LRQA) は、日本空港ビルデング株式会社 (以下、組織という) からの委嘱に基づき、ESG データブック 2024<sup>1</sup>に掲載される 2024 年度 (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日) 組織の温室効果ガス (以下、GHG という) 排出量データ<sup>2,3</sup> (以下、報告書という) に対して、検証人の専門的判断による重要性水準において、ISO14064-3:2019 を用いて、限定的レベルの独立保証業務を実施した。

LRQA の保証業務は、組織およびその国内連結対象子会社 17 社の拠点における国内での事業活動、および以下の要求事項を対象とする。

- 選択された GHG 排出量データが組織の定める報告方法に従っていることを確認すること。
- 下記の選択された指標のデータと情報の正確性および信頼性を評価すること。
  - GHG 排出量スコープ 1<sup>4</sup> (t-CO<sub>2</sub>e)
  - GHG 排出量スコープ 2 (t-CO<sub>2</sub>) ロケーション基準、およびマーケット基準<sup>5</sup>

保証業務の範囲は、組織のサプライヤー、業務委託先、その他第三者のデータおよび情報を除くものとする。

LRQA の責任は、組織に対してのみ負うものとする。本声明書の脚注で説明されている通り、LRQA は組織以外へのいかなる義務または責任を放棄する。組織は報告書内の全てのデータおよび情報の収集、集計、分析、公表、および報告書の基となるシステムの効果的な内部統制の維持に対して責任を有するものとする。報告書は組織によって承認されており、その責任は組織にある。

### LRQA の意見

LRQA の保証手続において、組織が全ての重要な点において、

- 自らの定める基準に従って報告書を作成していない
  - 下表 1 に要約された GHG 排出量データについて正確かつ信用できるデータと情報を開示していない
- ことを示す事実は認められなかった。

表明された意見は、限定的保証水準<sup>6</sup>および検証人の専門的判断による重要性に基づいて決定された。

表 1. 日本空港ビルデング株式会社の 2024 年度データの要約

| スコープ   |                    |                           |
|--------|--------------------|---------------------------|
| スコープ 1 | GHG 排出量            | 18,125 tCO <sub>2</sub> e |
| スコープ 2 | GHG 排出量 (ロケーション基準) | 107,898 tCO <sub>2</sub>  |
| スコープ 2 | GHG 排出量 (マーケット基準)  | 109,444 tCO <sub>2</sub>  |

<sup>1</sup> ESG データブック上の「※」の箇所のみを対象とする。

<sup>2</sup> GHG の定量化には固有の不確かさが前提となる。

<sup>3</sup> エネルギー起源 CO<sub>2</sub>、廃棄物の焼却に伴う CO<sub>2</sub>・N<sub>2</sub>O・CH<sub>4</sub> 排出のみを対象とする。

<sup>4</sup> 廃棄物の焼却に伴う CO<sub>2</sub>・N<sub>2</sub>O・CH<sub>4</sub> の算定は温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度 算定・報告マニュアル(Ver6.0)の算定シナリオを参照した自社設定のシナリオに基づき算定されている。

<sup>5</sup> マーケット基準算定において、供給事業者の情報を収集できない場合にはロケーション基準係数を用いている。

<sup>6</sup> 限定的保証業務の証拠収集は、合理的保証業務に比べて少ない範囲で行われ、各拠点を訪問して元データを確認するより集計されたデータに重点を置いている。従って、限定的保証業務で得られる保証水準は合理的保証業務が行われた場合に得られる保証に比べて実質的に低くなる。



## LRQA の保証手続

LRQA の保証業務は、ISO14064-3:2019 に従って実施された。保証業務の証拠収集プロセスの一環として、以下の事項が実施された。

- 報告書内に重大な誤り、記載の漏れおよび誤りが無いことを確認するための、組織のデータマネジメントシステムを審査した。LRQA は、内部検証を含め、データの取扱いおよびシステムの有効性をレビューすることにより、これを行った。
- データの収集と報告書の作成に関わる主たる関係者へのインタビューを行った。
- サンプルング手法を用いて、集計されたデータの再計算と元データとの突合を行った。
- 2024 年度の GHG 排出量データに関する記録および情報の検証を行った。
- データマネジメントシステムの運用状況を評価する為、日本空港ビルデング株式会社本社への訪問、および羽田空港第 1 ターミナルおよび羽田空港第 2 ターミナルを訪問し、データの収集及び記録管理の実施状況の確認を行うと同時に、敷地範囲において GHG 排出に係るモニタリングポイントの現場確認を実施した。

## 観察事項

保証業務を通じた更なる観察および発見事項は以下である。

組織は、その GHG 排出量データの完全性、正確性の継続的な改善に資するデータマネジメント構築とその維持が期待される。

## LRQAの基準、力量および独立性

LRQAはISO14065 “温室効果ガス—認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項”、ISO17021-1 “適合性評価—マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項 - 第1部：要求事項”に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。これらは国際会計士倫理基準審議会による国際品質管理基準1と職業会計士の倫理規定における要求も満たすものである。

LRQAは、その資格、トレーニングおよび経験に基づき、適切な資格を有する個人を選任することを保証する。全ての検証および認証審査の結果は上級管理者によって内部でレビューされ、適用された手続が正確であり、透明であることを保証する。

LRQAが組織に対して提供している業務は検証のみであり、そのためLRQAの独立性あるいは公平性を損なうものではない。

署名

日付: 2025年8月20日

*Shotaro Kamabata*

川端 将太郎

LRQA 主任検証人

LRQA リミテッド

神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-1 クイーンズタワーA10F

LRQA reference: YKA00001388

LRQA, its affiliates and subsidiaries, and their respective officers, employees or agents are, individually and collectively, referred to in this clause as 'LRQA'. LRQA assumes no responsibility and shall not be liable to any person for any loss, damage or expense caused by reliance on the information or advice in this document or howsoever provided, unless that person has signed a contract with the relevant LRQA entity for the provision of this information or advice and in that case any responsibility or liability is exclusively on the terms and conditions set out in that contract.

The English version of this Assurance Statement is the only valid version. LRQA assumes no responsibility for versions translated into other languages.

This Assurance Statement is only valid when published with the Report to which it refers. It may only be reproduced in its entirety.

Copyright © LRQA, 2025.